

いわき農林事務所ニュース

2006年2月号

活動状況

○一層の連携を図り、取り組み強化へ ～水田農業改革・集落営農推進サミットが開催される

1月20日、いわき地方の「水田農業改革・集落営農推進サミット」を、いわき市の正月荘で開催しました。現在の農業を取り巻く状況は、農家人口の減少・高齢化、耕作放棄地の増加に加え、WTO農業交渉で関税引き下げ圧力が強まる等、国内外とも一段と情勢が厳しくなっています。

いわき地方においても、平成12年からの5年間で、農業就業人口が10,595人から8,917人に減少し、耕作放棄地は846haから1,441haに増加しています。

また、米の生産目標数量は、生産調整の未達成や米需要の減少などの要因から、平成16年の21,422トンから平成18年は19,539トンと8%減少しています。

このような状況を打開し、地域農業と農村の活性化を実現するためには、関係機関・団体が意識の統一を図り、新たな気持ちでこの難局に取り組む決意が必要であることから、いわき市水田農業推進協議会の席上、いわき農林事務所の小山正雄所長が「水田農業改革・集落営農推進サミット」の開催を緊急提案し、出席者の賛同を得たものです。

賛同者は、いわき市、市農業委員会、JAいわき市、JAいわき中部、全農福島(ふくしま)浜通り営農事業所、土地連いわき支部、市認定農業者協議会、市農業共済組合、市消費者団体連絡協議会、福島農政事務所地域第三課、いわき統計・情報センター、県いわき家畜保健衛生所でした。



緊急アピールを採択したサミット

○緊急アピールを採択！

サミットでは、小山所長が開催の趣旨説明を行い、いわき市、各JA、土地連いわき支部、市認定農業者協議会の代表者がそれぞれの立場での決意表明を行った後、「いわき地域の農業・農村の発展のため、地域全体の知恵と技術を結集し、関係者が一体となって、水田農業改革と集落営農の実現に積極的に取り組む」という『農業改革緊急アピール』が読み上げられ、全会一致で採択されました。

アピールには「県は、水田農業改革アクションプログラムの目標実現と集落営農の確立に向けた施策を講じる」「いわき市は、地域水田農業ビジョンの実現と集落営農の確立に向けた支援を行う」「農業者団体は、水田農業改革の実現と集落営農の確立に向け主体的に取り組む」などの5項目が盛り込まれており、今後、各参加者はその実現に積極的に取り組んでいきます。

○「トマト」について学ぶ！ ～新規就農者等研修会が開催されました

1月13日、県いわき農林事務所主催の新規就農者(しゃ)等研修会を開催しました。

新規就農者等を対象に技術、経営能力の向上を図り、農業経営の早期安定と就農の定着を図るのが狙いで、1月に開催した「環境にやさしい農産物生産について」をテーマとする第1回に引き続く2回目の開催です。

今回は、日照に恵まれ、温暖ないわき地方の代表的な冬期品目「トマト」に注目し、「高品質トマト生産と販売戦略について」をテーマとして、県指導農業士でトマト生産者である助川正克氏、鯨岡千春氏、高木(たかぎ)茂寿氏の3名を講師に迎えました。

就農して間もない農業者やこれから就農を考えている方(かた)など、県南からの参加者も含め8名が参加しました。

まず見学は、市内渡辺町の高木(たかぎ)氏のほ場で中玉トマト、ミニトマトの水耕栽培を、四倉町の鯨岡氏(有限会社 とまとランドいわき)のほ場では大規模ロックウール栽培について行われました。

次に、とまとランドいわきの休憩室において、販売戦略や生産についての講義と意見交換が行われました。

意見交換では、技術面において、養液配合や施肥、培地(粉ガラ利用試作など)、国産クロマルハナバチの利用、品種特性、経費、堆肥利用土作りなどについて、また、販売戦略面においては、目的に応じておみやげ用やスーパー出荷用などに分けて使用している出荷箱やパッケージの商品が見栄えるように工夫する方法、直売所での販売方法などについて活発な質問が出されました。

講師からは、品種選択について「直売も含めて検討しているのであれば高品質少量生産で味のよい品種を、市場への出荷を中心に検討しているのであれば、生産性や市場性(見た目、日持ち)を重要視した品種を選択すべき」とアドバイスがあり、参加した新規就農者(しゃ)等もこれからの経営の参考になった様子でした。



ほ場を見学する研修生



おみやげ用の出荷箱について説明を受けた

○まずは基礎から学ぼう！ ファーマーズ講座—基礎編が開講されました

1月18日と25日の両日、ファーマーズ講座を開講しました。土づくりや農薬の適正使用などの基本的な知識を習得し、環境にやさしい農業、安全・安心な農産物生産につなげることを目的に、当事務所の職員が講師となり、計3回開催します。

今回は、農業者からの要望により、わかっているようでわかっていない各作物に共通した土づくりや農薬の使用方法などの「基礎」を学習しました。

第1回は1月18日に行われ、「自分のほ場の土を知ろう！」をテーマに、土壌の種類や特徴、土壌診断の基礎となる土壌の物理性・化学性などについて学びました。第2回は1月25日に「土づくりの基本」をテーマに、作物に必要な養分や土壌診断表の見方と診断を基にした肥料や土壌改良資材の使い方について学びました。

講座には、新規就農者や直売所を運営する生産者のほか、福祉関係授産施設の担当者などが参加し、第1回目は38名、第2回目は50名と大変盛況でした。参加者はとても熱心で、講座終了後も質問が絶えないなど、土づくりや基礎的な内容についての関心の高さが感じられました。

第3回は「安全な農産物を生産するために」をテーマとして、農薬の種類や選び方、使用上の注意点などについて、2月に開催の予定です。



土壌サンプルで土の特性を確認

○記帳管理の重要性を再認識！第2回いわき農業経営セミナーを開催

1月27日、第2回いわき農業経営セミナーがいわき市平のいわき建設会館で開催され、いわき市内の直売所や生産組織の代表など17名が参加しました。

セミナーでは、「直売所や生産組織における税務について」をテーマに、税理士の木幡会計事務所 木幡仁一さんによる講義が行われ、会計基準や作成書類、税務申告をはじめ「人格なき社団（権利能力なき社団）」の法人税の申告義務などについて分かりやすく説明が行われました。これからも記帳管理をきちんと行うとともに、その中で個人と組織を分けて管理するよう指導がありました。

参加者は、改めて記帳管理の重要性を認識した様子で、正しい記帳への意欲が高まったようでした。



税務について学んだセミナー

トピックス

○おつかれさま！ ～渡辺小の「田んぼの学校」引き継ぎ式

1月24日、いわき市渡辺町の渡辺小学校で「田んぼの学校」の「引き継ぎ式・開校式」が開催され、5年生から4年生にバトンタッチされました。

式では、「田んぼの学校」の校長を務める 上遠野久雄さんから、21名の5年生1人1人に活動の写真が掲載された修了証書が手渡されました。次に、2名の5年生代表から「大変だったけど、勉強になった。楽しかった。」などの体験談が発表され、「田んぼの学校の旗」を4年生の代表に手渡しました。引き継いだ4年生の代表は「私たちも、がんばります。」と決意を表し、4年生15名全員による豊年太鼓が披露されました。また、活動をサポートする地元の方(かた)が作った甘酒も振る舞われました。

今後、「田んぼの学校」は引き継いだ4年生の児童たちが中心となって活動が行われます。

○新たに4年生が活動開始

～「ビオトープづくり」など

式の終了後、4年生の児童たちは田んぼに移動し、早速、「ビオトープづくり」「水入れ」「畦畔踏み」に取り組みました。

「ビオトープづくり」では、メダカなどの生きものが住みやすいよう、土を掘り返して水路を作りました。作業の途中、土の中にドジョウを見つけ、ドジョウ捕りに夢中となってしまいました。捕ったドジョウは、教室で飼うことになりました。

次に、みんなが見守る中、「水入れ」を行いました。水を止めていた板を引き上げると、ビオトープ内に勢いよく水が流れ込み、児童たちからは歓声が上がりました。

最後に「畦畔踏み」を行いました。畦畔が崩れて水が漏れないよう、畦畔の上を一行に並んで踏み固めました。まるでカニ歩きのような様子でした。

渡辺小の「田んぼの学校」は、今年、12回の事業を予定しています。今回は、ユニフォームとなる「田んぼの学校Tシャツ」を作る予定です！



修了証書を受けた5年生の児童たち



4年生は豊作を願い豊年太鼓を披露

○愛称は「温丸（ぬくまる）」 ～来月から製造されるいわき産ペレット

1月25日、いわき市の協同組合いわき材加工センターが販売する木質ペレットの名称決定審査会が行われ、「いわき産ペレット温丸（ぬくまる）」に決定しました。

「温丸」は、3月からいわき市遠野(とおの)町の遠野興産株式会社で本格的に製造され、同センターが販売を行いますが、それに先立ち、昨年12月から名称を新聞等で募集したところ、県内外から433件の応募がありました。

選考は、同センターの理事長や県いわき地方振興局長、県いわき農林事務所長をはじめ、県、市、林業関係者など9名の審査員により行われました。「いわきや福島イメージがわかる」「親しみやすく覚えやすい」「環境に優しい」などの審査基準により選考した結果、いわき市洋向台の植田公美子さんの作品が選ばれました。

木質ペレットは、原料であるおが粉や樹皮をペレット状に圧縮成型した木質固形燃料のことで、取り扱いが容易であり、ペレットストーブやペレットボイラーに利用される環境にやさしい燃料です。

遠野興産株式会社の木質ペレット製造工場は、環境省による補助事業「環境と経済の好循環のまちモデル事業」により建設され、この工場生産される木質ペレットには、原料として、いわき市内の森林から出た素材、特に通常木材として利用されにくい曲がり材や傷のある材も使用できることから、いわき市の森林整備の促進、林業の活性化につながると期待されています。

また、いわき市でもバイオマスエネルギーの一つである木質ペレットの活用を推進しており、平成16年度に



ペレットストーブ（いわき市田人支所）

は田人支所にペレットボイラーが、いわき市フラワーセンターにペレットストーブがそれぞれ導入され、さらに今年度は田人おふくろの宿にペレットボイラーが導入される予定です。

「いわき産ペレット温丸」に関する問い合わせは、協同組はいわき材加工センターまで。

電話0246-74-1288



いわき産部レット「温丸」

◀ もどる

すすむ ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]

